

韓国環境部プレスリリース 2020年3月9日付

京畿道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 321-325 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1348545&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月5日～6日に京畿道（キョンギド）坡州市（パジュシ）津東面（チンドンミョン）、郡内面（クンネミョン）および漣川郡（ヨンチョンゴン）百鶴面（ペツカンミョン）で発見された野生いのしし死体5個体から ASF ウイルスが検出されたと3月8日明らかにした。

□国立環境科学院は3月8日死体5個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゴン）130件、漣川郡（ヨンチョンゴン）103件、坡州市（パジュシ）70件、鉄原郡（チョルウォンゴン）22件、合計325件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

○野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回陽性になった死体は全て民間制限線の2次フェンス内で発見された。既存感染個体発見地点から30～900m離れた地点であった。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高いため、徹底的に搜索している」と明らかにした。

以上